

製品安全データシート

作成日：2011 年 03 月 22 日

改訂日：2025 年 07 月 29 日

確認日：2025 年 07 月 29 日

1. 化学品及び会社情報

製品名	フルオロセル WDF
供給者の会社名称、住所及び電話番号	シスメックス株式会社 〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通 1 丁目 5 番 1 号 シスメックス株式会社 テクノパーク 〒651 2271 神戸市西区高塚台 4 丁目 4 番地の 4 TEL：(078) 991—1911
緊急連絡電話番号	TEL：(078) 991—1911
推奨用途	臨床検査測定用
使用上の制限	推奨用途以外への使用は禁止する

2. 危険有害性の要約

化学品の GHS 分類	
物理化学的危険性	区分に該当しない
健康に対する有害性	急性毒性（経口） 区分 4
環境に対する有害性	区分に該当しない
GHS ラベル要素	
絵表示	 GHS07
注意喚起語	警告
危険有害性情報	H302 飲み込むと有害
注意書き	
安全対策	該当しない
応急措置	P301+ P312 飲み込んだ場合：気分が悪い時は医師に連絡すること。
保管	該当しない
廃棄	P501 内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。
GHS 分類に関係しない又は GHS で扱われない他の有害危険性	情報なし

3. 組成及び成分情報	
化学物質・混合物の区別	本製品は、化管法、毒劇法に該当する物質を閾値以上含んでいません。
成分の化学名	混合物
濃度又は濃度範囲	エチレングリコール 96.9 %
CAS 番号	107-21-1
化審法 官報整理番号	2-230
安衛法 官報整理番号	既存
成分の化学名	メタノール
濃度又は濃度範囲	3.00%
CAS 番号	67-56-1
化審法 官報整理番号	2-201
安衛法 官報整理番号	既存
4. 応急措置	
必要な応急処置の説明	
吸入した場合	被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。医師の手当、診断を受けること。
皮膚に付着した場合	皮膚を速やかに洗浄すること。皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。医師の手当、診断を受けること。
眼に入った場合	水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が続く場合、医師の診断、手当てを受けること。
飲み込んだ場合	口をすすぐこと。医師の手当て、診断を受けること
急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状	情報なし
応急措置をする者の保護に必要な注意事項	情報なし
5. 火災時の措置	
適切な消火剤	粉末消火剤、二酸化炭素、水噴霧、耐アルコール性泡消火剤、砂
使ってはならない消火剤	棒状注水
火災時の特有の危険有害性	情報なし
消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措	消火作業の際は、空気呼吸器、化学用保護衣を着用す

置	る。
6. 漏出時の措置	
人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置 環境に対する注意事項 封じ込め及び浄化の方法及び機材 二次災害の防止策	直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。関係者以外は近づけない。 漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。 作業者は適切な保護具(8.暴露防止措置及び保護措置の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。 保護用眼鏡、ゴム製の靴、保護用手袋を着用する。 風上に留まる。低地から離れる。 河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。環境中に放出してはならない。危険でなければ漏れを止める。 除去後、汚染現場を水で完全に洗浄する。すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。
7. 取扱い及び保管上の注意	
取扱い 安全取扱注意事項 衛生対策 保管 安全な保管条件 安全な容器包装材料	使用前に使用説明書を入手すること。 すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。 火気注意。 取扱い後はよく手を洗うこと。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 環境への放出を避けること。 室温(35℃以下)で直射日光・粉塵等を避けて保管する(凍結禁止)。火気厳禁。強酸化剤、強酸、強塩基から離して保管する。 密封可能な容器
8. ばく露防止及び保護措置	
許容濃度等 日本産業衛生学会 ACGIH 設備対策	200ppm (260mg/m³) (皮) (メタノールとして) TWA-STEL C 100mg/m³(H) A4 (H) Aerosol only (エチレングリコールとして) TWA 200 ppm(H) STEAL 250ppm(Skin) (メタノールとして) 本製品を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャ

保護具	フーを設置すること。
呼吸用保護具	高熱取扱いで、工程で蒸気、ヒューム、ミストが発生するときは、空気汚染物質を管理濃度・許容濃度以下に保つために換気装置を設置する。
手・皮膚の保護具	特に必要ない。
眼、顔面の保護具	保護手袋、保護衣の着用が望ましい。
特別な注意事項	保護眼鏡の着用が望ましい。
	情報なし

9.物理的及び化学的性質

物理状態	液体
色	青色澄明
臭い	なし
融点／凝固点	-12℃
沸点又は初溜点及び沸騰範囲	データなし
可燃性	データなし
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界	データなし
引火点	99℃（クリーブランド開放式）
自然発火点	データなし
分解温度	データなし
pH	データなし
動粘性率	データなし
溶解度	水に 100%可溶
n-オクタノール／水分配係数（log 値）	データなし
蒸気圧	データなし
密度及び／又は相対密度	1.09 (20/4℃)
相対ガス密度	データなし
粒子特性	データなし
その他のデータ(放射性、かさ密度、燃焼持続性)	データなし

10.安定性及び反応性

反応性	データなし
化学的安定性	通常の条件においては安定である。
危険有害反応可能性	強酸化剤、強塩基と反応する
避けるべき条件	加熱、火花、裸火などの着火源
混触危険物質	強酸化剤、強塩基

危険有害な分解生成物	一酸化炭素、二酸化炭素、ホルムアルデヒド、その他刺激性/有害性のある煙霧や気体
11. 有害性情報	
急性毒性	
経口	ラット/経口 LD ₅₀ 4000mg/kg (エチレングリコール) 、 2500mg/kg (メタノール) であり、混合物の推定 LD ₅₀ が 3930mg/kg
経皮	データ不足のため分類できない
吸入	データ不足のため分類できない
皮膚腐食性/刺激性	皮膚刺激 (ウサギで、555mg/open,mild) 且つ濃度 10%を 超えている。(エチレングリコールとして)
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	眼 (ウサギ、1440mg/6h、Moderate) と皮膚刺激との加減 法計算による。(エチレングリコールとして)
呼吸器感作性又は皮膚感作性	データ不足のため分類できない
生殖細胞変異原性	データ不足のため分類できない
発がん性	データ不足のため分類できない
生殖毒性	データ不足のため分類できない
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	(エチレングリコールとして) ヒトについて、「誤飲後 34 日以降に意識障害、痙攣、昏迷状態がみられ、血液化学的検査では尿素窒素、クレアチニン及び尿酸が増加、尿検査で蛋白尿及び血尿がみられ、腎障害が認められている。腎生検で尿細管に組織学的変化がみられている。また、肺の軽度なうっ血がみられた」「急性影響は 4 段階に分けられる。まずばく露後 30 分から 12 時間後に起こる中枢神経系への作用、次にばく露 12-36 時間後に起こる心肺系への影響、さらに第 1 及び第 2 段階で死亡(エチレングリコール)を免れた者にみられる腎臓障害、そして中枢神経系の変性である。」との記載がある。 (メタノールとして) ヒトの急性中毒症状として中枢神経系抑制が見られ、血中でのギ酸の蓄積により代謝性アシドーシスに至る。そして視覚障害、失明、頭痛、めまい、嘔気、嘔吐、頻呼吸、昏睡などの症状があり、時に死に至ると記述されている (DFGOT vol.16 (2001)、EHC 196 (1997))。また、中枢神経系の障害、とくに振せん麻痺様錐体外路系症状の記載 (DFGOT vol.16 (2001)) もあり、さらに形態学的変化として脳白質の壊死も報告されている (DFGOT vol.16 (2001))。標的臓器としてさらに、眼に対

特定標的臓器毒性（反復ばく露）	する障害が特徴的であるので視覚器を、また、代謝性アシドーシスを裏付ける症状として頭痛、嘔気、嘔吐、頻呼吸、昏睡などの記載もある。 （エチレングリコールとして）ヒトについて、「意識消失、眼球振とう」「軽い頭痛と腰痛、上気道の刺激」との記載があり、実験動物については「肺及び心臓に炎症性の変化」との記載がある。 （メタノールとして）ヒトの低濃度メタノールの長期ばく露の顕著な症状は広範な眼に対する障害だったとする記述〔EHC 196 (1997)〕や職業上のメタノールばく露による慢性毒性影響として、失明がみられた〔ACGIH (7th, 2001)〕。
誤えん有害性 その他の情報	データ不足のため分類できない 情報なし
12. 環境影響情報	
生態毒性 水生環境有害性、短期(急性) 水生環境有害性、長期(慢性) 残留性・分解性 生態蓄積性 土壌中の移動性 オゾン層への有害性 その他の有害性	ニジマス 96h LC ₅₀ =47mg/L（エチレングリコールとして） 情報なし 情報なし 情報なし 情報なし 情報なし 情報なし
13. 廃棄上の注意	
化学品（残余廃棄物）当該化学品が付着している汚染容器及び包装の安全で、かつ、環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報 残余廃棄物	廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。 廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。 廃棄物の処理を依頼する場合、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。

付着している汚染容器及び包装	容器は清浄してリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。
14. 輸送上の注意	
国際規制	
航空規制情報（ICAO/IATA）	輸送危険物には該当しない
国連番号	非該当
品名（国連輸送名）	非該当
国連分類（危険有害性クラス）	非該当
容器等級	非該当
海上規制情報（IMO）	輸送危険物には該当しない
国連番号	非該当
品名（国連輸送名）	非該当
国連分類（危険有害性クラス）	非該当
容器等級	非該当
海洋汚染物質	非該当
MARPOL73/78 付属書 II 及び IBC コード によるばら積み輸送される液体物質	非該当
国内規制	
航空規制情報	輸送危険物には該当しない
海上規制情報	輸送危険物には該当しない
陸上規制情報	消防法の規定に従う
輸送又は輸送手段に関する特別の安全策	輸送の前に容器の破損、腐食、漏れ等のないことを確かめる。危険物は当該危険物が転落し、又は危険物を収納した運搬容器が落下し、転倒もしくは破損しないように積載すること。移動の際に、転倒、衝撃、摩擦、圧壊、漏洩などを生じないようにする。輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れを生じないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。運搬中の事故等により災害が発生した場合は、もよりの消防機関その他の関係機関に通報すること。 重量物を上積みしない。
15. 適用法令	
薬機法	非該当
安衛法	該当：エチレングリコール（安衛法施行令 別表第 2-261 名称などを表示し、又は通知すべき危険物及び有害物

	皮膚吸収性有害物質 令和 7 年 4 月 1 日施行)
	該当：メタノール（安衛法施行令 別表第 2-2006 名称 などを表示し、又は通知すべき危険物及び有害物 皮膚 吸収性有害物質 令和 7 年 4 月 1 日施行)
化管法	非該当
毒劇法	非該当
化審法	該当: エチレングリコール（優先評価化学物質、官報整理 番号：2-230）
水質汚濁防止法	非該当
航空法	非該当
船舶安全法(危険物船舶運送及び貯蔵規則)	非該当
消防法	該当：メタノール（第 4 類引火性液体、第三石油類水溶性 液体）
スイス連邦法 揮発性有機化合物の特別税法	非該当

16. その他の情報

その他の情報	本 SDS は JIS Z7253:2019 に準拠して作成しています。 ここに記載された情報は、シスメックス株式会社の最善の見地に基づくものですが、情報の完全さ、正確さを保証するものではありません。本品の適正に関する決定は使用者の責任において行ってください。
略語	ACGIH：アメリカ合衆国産業衛生専門官会議(American Conference of Governmental Industrial Hygienists) TWA：許容濃度(Time-Weighted Average) ICAO：国際民間航空機関(International Civil Aviation Organization) IATA：国際航空運送協会(International Air Transport Association) IMO：国際海事機関(International Maritime Organization) IBC コード：国際バルクケミカルコード(International Code for the Construction and Equipment of Ships Carrying Dangerous Chemicals in Bulk) 薬機法：医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律 安衛法：労働安全衛生法 化管法：化学物質排出把握管理促進法 毒劇法：毒物及び劇物取締法 化審法：化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律 NITE：独立行政法人製品評価技術基盤機構(National Institute of Technology and Evaluation)

